

カービューティープロのボディコーティング施工工程

①ボディチェック	⑪脱脂作業
②足回りの洗浄	⑫ボディコーティング
③ディテイルウォッシュ	⑬ディテイルコーティング
④ボディウォッシュ	⑭コーティング拭きとり
⑤鉄粉等異物除去	⑮樹脂パーツつや出し
⑥塗装面の保護（マスキング）	⑯タイヤつや出し
⑦1st ポリッシュ	⑰ガラスクリーニング
⑧2nd ポリッシュ	⑱最終確認作業
⑨ファイナルポリッシュ	⑲施工証明書発行・ステッカー貼付
⑩ディテイルポリッシュ	

けているところもある」という。輸入車ディーラーについては、今でも外注しているところがほとんどだ。

ディーラーでは新車販売時の付加価値アップ商品として、必ずといっていいほどボディコーティングを推奨している。そのため、施工販売するのは一般ユーザーがほとんどであるが、その中でも高い施工レベ

ルを求めるお客様は存在する。こうした状況も踏まえ、カービューティープロでは「強いこだわりを持つお客様の数は以前と比べても減っていない」と考えている。

技術認定基準を制定し

専門店の施工技術を広くPR

かつてはボディコーティングといえば、クルマにこだわりを持つ人が専門店で施工するものだった。それがディーラーやカー用品店、SSなど、施工チャネルが増えたことで、一般ユーザーでも気軽にボディコーティングができるようになった。

しかし、専門店と他の施工チャネルとは、既販車に対する作業内容に違いがある。

専門店の場合は「下地処理（磨き）」を入念に行っている。ボディコーティングはコーティング剤により形成される被膜と塗装面がしっかりと密着しなければ効果を発揮できない上、すぐに被膜が剥がれ落ちてしまう。そのため、専門店では塗装面にできたキズを削り、なるべく平らな状態に磨いた後でコーティング剤を塗布するのが常識だ。この作業には多くの時間を割

いており、プロの間で磨くのが難しいとされている「プリウス202」の黒色の場合、2〜3年程度使用した車両を磨くのに約8時間かけて作業することもあるという。

ボディコーティングの販売チャネルが多様化して市場の裾野が広がった結果、コーティング剤から施工方法に至るまで、市場にはさまざまな商品が混在するようになった。

しかし、一般ユーザーの間では「ボディコーティング」として一括りにされているのが現状だ。そのため、商品による性能の差や店による施工技術レベルの違いなどを調べずにコーティングをした結果、「効果がわからなかった」とマイナスイメージを持ってしまふユーザーがいることに、専門店の多くは問題意識を持っている。

こうした中、専門店で行うコーティングの良さを広く世間に浸透させるため、「日本コーティング協会」が創設された。同協会では、独自の基準に基づいて審査する「コーティング技能検定」を実施している。

今までコーティングには技術基準がなかったため、ユーザーからすると、専門店と他の施工チャネル

とのコーティングの違いがわかりにくかった。そこで同協会では独自の技術基準を設けて技能検定を行い、優秀な技術者を育成・認定することで、優れたコーティング技術を持つ専門店の存在を広くアピールすることにした。

これにより、専門店と他の施工チャネルとのコーティングの違いが明確になれば、ユーザーのコーティングに対する認識が今よりも深まり、商品や技術の違いを理解した上で、自分のニーズに合ったコーティングを正しく選べるようになる。その結果、顧客満足度の向上につながり、市場のさらなる拡大を図ることができると考えている。



過去に開催された1級検定試験の様子